

検査説明書（FAX 検査予約用）

検査名

胃（上部消化管）内視鏡検査

20 年 月 日

検査について説明致しますが、分からないことがありましたら、遠慮なくご質問下さい。

消化器内科

1. 検査目的

2. 検査方法

内視鏡検査を円滑に行うために、消化管の中の泡立ちを減らす薬（消泡剤）を飲み、咽頭（ノド）の局所麻酔をし、胃腸の動きを抑える薬を注射してから、内視鏡を口から食道、胃、十二指腸にに入れて送気しつつ、消化管を膨らませながら観察します。そのために、咽頭（ノド）の違和感、圧迫感、閉塞感やお腹の膨満感、伸張感などがあります。検査時に病変が見つかった時は、詳しく調べる為に、色素を撒いたり、細胞を採ったり（生検）する事があります。出血などがある場合は、止血をする事もあります。

3. 検査前後の注意（別にも説明致します。）

原則的には、空腹の状態（絶食）でおこないます。しかし、内服中の薬がある場合、薬によって中止しない方がよいものは、少量の水で、飲んで頂くことがあります。逆に、薬によっては（ワーファリン、パナルジン等の血液をさらさらにする薬ー抗凝固剤等）、何日も前から飲まないようにして頂く事もあります。

胃腸の動きを抑える薬（鎮痙剤）は、心臓病、緑内障（目の病気）、前立腺肥大症等の人には使えませんのでお申し出下さい。アレルギーのある方もお申し出下さい。

鎮痙剤の作用で目がチカチカしたり、動悸がしたりします。検査後の運転は控えて下さい。麻酔等の薬の効きき目がとれるまでは食事は出来ません。

色素を使う検査をした時には、検査後胸焼けがしたり、尿や便に色が付いたりします。

生検をした後で稀に出血する事があります。万一、血液やコールドールのような物を吐いたり、下から出たり（下血）した場合は直ぐに病院に連絡してください。

その他、胸焼けが長く続いたり、強い痛み等、何かありましたら病院に連絡してください。

4. 検査に伴う合併症等

上部消化管内視鏡検査に伴う合併症の頻度は、全国集計で0.007%でした。主なものは、穿孔（胃の壁に穴があいて腹膜炎を起こします）、出血、アレルギー反応等です。

万一、上記のような合併症が起こった場合は、大事に至らぬよう万全の対応を致しますが、必要に応じ入院や緊急の処置、手術を要する事があります。

紹介元

医療機関

医師名

松戸市立総合医療センター 消化器内科 医師名

検査同意書

年 月 日生

私 _____ は、上記検査について担当医師から十分な説明を受け、その内容及び危険性について理解しましたので、検査の実施に

☐ 同意します☐ 同意しません

20 年 月 日

患者様氏名 _____

立会人氏名 _____（続柄 _____）